

竜王北中学校 学校関係者評価書（前期）

平成29年7月21日（金）
竜王北中学校関係者評価委員会作成

第1回 学校関係者評価委員会

実施日：平成29年7月7日（金）午後5時～午後6時30分

会 場：竜王北中学校校長室

参加者：【学校関係者評価委員】

石合 廣光（学校評議員） 吉村 広人（自治会長）
田中 陽子（保護司） 小尾 裕子（主任児童委員）
田中 浩二（前PTA会長） 赤池 裕樹（PTA会長）

【学校側】

今村 淳一（校長） 小林 雅人（教頭） 竹内 太郎（教務主任）

I 学校側から提案された内容

- ・平成29年度自己評価書（前期）
- ・平成29年度自己評価シート集計結果

II 協議された主な内容

- ・平成29年度自己評価書（前期）における学校の課題とその改善策
- ・本校の教育活動についての質疑とそれに対するご意見

< 学校関係者評価書 >

I 全体評価

- ・肯定的な回答(A「そう思う」、B「ややそう思う」の合計)が、45項目中41項目で90%を超えている。
- ・肯定的な回答が80%を下回る項目は一つもなく、80%以上90%未満は、「個に配慮した授業」「教材教具や備品等を活用した授業」「地域人材や施設を活用した教育活動」「学校に対する要望等を聞く機会の設定」の4項目であった。
- ・平均値が低かった(3.3以下)項目は、「危機管理(防犯、防災、事件、事故等)マニュアルの理解」(3.3)、「学びの意欲を喚起する授業」(3.3)、「個に配慮した授業」(3.1)、「地域人材や施設を活用した教育活動」(2.9)、「学校に対する要望等を聞く機会の設定」(3.0)、「PTA活動への主体的な参加」(3.3)、「保護者の学習指導や生活指導への協力」(3.3)の7項目であった。

以上の点から、平成29年度自己評価(前期)は、概ねこの通りでよいと考える。
提示のあった改善策・手立てをより具体的なものとして実行して欲しい。

Ⅱ 特 徴

- ・昨年度に引き続きこの時期に、竜王北中は独自に自己評価を行った。このことは、一学期の教育活動をきちんと振り返り、二学期以降に生かしていくという点から非常に大切であり、よりよい学校づくりに不可欠である。
- ・竜王北中は、県の道徳推進事業の指定を受けて2年目を迎えた。11月17日（金）には「道徳公開研究会」を行う予定だが、研究主題は「自ら学び、考え、判断し、心を磨いていく生徒の育成～考え、議論する授業の実践研究を通して～」である。
- ・生徒がとても礼儀正しく、挨拶も気持ちよくできている。下駄箱やロッカーの整理整頓や掃除などに一所懸命に取り組む姿は「北中スタンダード」となっている。

Ⅲ 今後の課題として意識したいこと

《学力向上と授業改善》

本校には素直で真面目な生徒が多く、授業にもしっかりと取り組んでいる。しかし、学力がなかなか身につく生徒が少なくない。そして、授業が分からないことが不登校の芽にもなってくることが危惧される。このような現状を踏まえ、教師も不断の授業改善をしていく必要がある。ティームティーチング（TT）による少人数指導や小グループを使った言語活動、北中ボード（ホワイトボード）を用いた発表（プレゼンテーション）などを通して、生徒に確かな学力をつけていきたい。また、板書を考えたり、ノートの取り方を工夫させたりしたい。それから、何より学級集団の人間関係を良くしていくことが、良い授業をつくる近道でもある。一方保護者の立場からも、学校に任せきりでなく、自分の子どもに絶えず関心を持つようにしたい。

《地域や保護者との連携》

大分改善されてきてはいるが、昨今の教育課題を鑑みたときに、今後更に連携を密にしていっての方が良いと考えられる。学校開放日や授業参観等の見直しをする必要もあるのではないかな。親子愛校作業なども現在は行っていないが、親子のふれあいという観点からも大切なことである。また、防災による引き取り訓練等も考えていきたい。それから、地域とのつながりを強くするために、学校の様子を積極的に情報発信していきたい。ホームページや各種通信だけでなく、地域の回覧板等も活用したい。昨年度発信した『子どもは地域の宝です』という通信も再度周知したらどうだろうか。

記載責任者（竜王北中学校 学校関係者評価委員長） 氏名：石合 廣光 印